

F U J I M I



私たちの富士見町移住ストーリー



3-じみまち
コトハジメ



OUR STORY
ABOUT
FUJIMI-MACHI

N A G A N O

F U J I M I

長野県、富士見町。八ヶ岳と南アルプスに囲まれた山あいの小さな町です。夏はとっても涼しいけれど、冬は氷点下10度にもなる厳しい自然環境。そんな町に、今少しずつ何かをはじめたい人たちが集まってきています。誰かの「はじめよう」が、町をおもしろく、元気にしている。富士見町に移り住んできた人たちの「コトハジメ」ストーリー、ちょっとのぞいてみませんか？

3-じみまち
コトハジメ



N A G A N O

FUJIMI area map



中心地エリア



生活に必要なものが揃う町の中心街 JR富士見駅周辺のエリア。町役場、公民館、公園、スーパー、ドラッグストア、コンビニ、病院などがコンパクトにまとまっています。

富士見高原エリア



八ヶ岳の麓・富士見高原の別荘エリア 西岳、編笠山の登山口に程近い標高1200mの別荘地エリア。企業の保養所なども多く、夏には観光客や別荘に来る人で賑わいます。

入笠山エリア



富士見パノラマを中心に広がるエリア 国道20号より入笠山側にあり、別荘も多いエリア。八ヶ岳側より日照時間が短いですが、中心地からは車で10分程。森の中の閑静な住環境が魅力。

信濃境エリア



長野と山梨の県境に広がるエリア すぐお隣が山梨県北杜市。山梨県にもアクセスしやすく、移住者も多いエリア。開けた土地が多く、昔ながらの田園風景が広がります。

新しい働き方を
作り始める

STORY 01

農業 + IT 新しい働き方の 可能性を探る

仕事は一つに絞らなくてよい。そう教えてくれたのは、富士見町で生まれ育った佐伯幸平さん。28歳という若さで農家とITの2つの会社を立ち上げ、奮闘しています。佐伯さんの仕事の特徴は、農業もITもどちらも本業というところ。好きな事を仕事にしつつ自身のスキルを生かして複数の仕事を持つライフスタイルは、地方での新しい暮らし方の参考になりそうです。



農業 + IT その働き方のきっかけは？

「幼い頃は母に連れられ親戚の農作業を手伝ったりしていました。しかし当時は農家になりたいとは思わず、高校から寮生活のために富士見町を離れます。そこでプログラマーとしてのスキルを身に付け、インターンシップで福井県のITベンチャー企業に行く事になったのが一つのきっかけだったかもしれません」

そこで、『ITと農業』という2つの運命的な出会いをします。それまでの「仕事は一つじゃないといけない」と当たり前のように思っていた考え方に、疑問を持ち始めます。「自分のやりたいことを仕事にしたい」という会社があったら行きたいと考えるようになりました。しかし、『二つの仕事を両立できる』ような会社は中々見つからずに断念し

ていました。

ちょうどその頃『農業とIOT』という言葉が世の中に始まった頃。調べるうちに、自分でも出来るのではないかと思うようになり、やるなら自分の地元である富士見町でやりたいと思いました。そのためにはまず、農業と経営を学ばなくてはいけない。そこで長野県の農業大学校の実践経営者コースに2年間通う事になりました。簿記や農業経営を学び、農業の実際のフィールドでの実地研修も経験しましたし、その間も、プログラマーとしての仕事は平行してやっていました。

ついに農業 + IT としての キャリアをスタート

ITと農業と経営を学んだ佐伯さんは、この時24歳。基盤を作ろうと地元富士見町に戻ります。必要な農地は、地元の

方々が「幸平がやるなら！」という事で進んで貸してくれたそう。

当初、田んぼが多かったエリアで農業経営をするには野菜を作っていかななくては利益も中々残らない。その事を学んでいた佐伯さんは、田んぼだった農地を土壌改良し、ブロッコリー畑をこの富士見町で始めます。

「初年度、まだ少ない農地でしたが、育てたブロッコリーの収穫も終わり、きちんと値段もつきました。それにより農業で暮らしていけるという自信がついた年でした。ただ、想像していた通り、農業の仕事は忙しく大変です。初年度は100%農業に専念したため、全くITの仕事は出来ませんでした。

初年度が終わった冬の農閑期から、少しずつWEB制作などのITの仕事を再開していき、農地も年々増やしていく事が



収穫3日前のブロッコリー畑は圧巻。畑に隣接する小屋で農作業をしながらのパソコンワークも珍しいそう。

できました。農業における時間の配分も徐々になれていき、夏場の繁忙期でも、どうしたら農業以外の仕事の時間を確保できるかという考えにシフトするようになっていきました。」

仕事を手伝ってくれる仲間も見つかり、ITの仕事と農業の現場を行き来するという当初の構想通りの生活になっていきます。

農業経営で学んだ事を生かし、頭の切り替えと集中力の確保、週一で東京に打ち合わせに行く。その時間を作るためには何か、スケジュールをしっかりと組むことが自然になっていったそうです。

農業とIT どちらも面白い

「農業は実際やってみると本当に大変でした。いくら二つの仕事ができると

いっても、時間が二倍になるわけではないので、必然的に睡眠時間も削られます。

そんな中でも単純に農業という仕事もITという仕事もどちらも好きなんだと思いますし、どちらも面白い。農業は長い目線で、五年後を見据えて計画を立てる。ITは短いスパンの中で作業する。その二つの違いがおもしろいです。

これからの課題は、農業とITが互いにもっと密に絡み、寄り添って交じわることのできる事業に携わっていくこと。自社サービスとして、農業を組み合わせたものをこれから実現させていきたい。ITとリモートワーク 農業+〇〇という会社にしていきたいです。」

富士見町から全国へ向けて、『農業×IOT』の全く新しいサービスが発信される未来もすぐそこかもしれません！



新規就農の相談窓口

富士見町役場 産業課 営農推進係
Tel:0266-62-9328
Mail: sangyou@town.fujimi.lg.jp

こちらのインタビューの全文をご覧になりたい方は、富士見町移住情報WEBサイト「ウツリズム」からご覧ください。下記のQRコードからもアクセスが可能です。



「ウツリズム」
https://u-town-fujimi.jp/articles/t8bq04000000k66.html



仕事を
作り始める

STORY 02

自分の仕事を作る
きっかけくれた
森のオフィス

結婚を機に東京から夫の実家のある長野県に移住した澤井理恵さん。もともと東京のテレビ局で働いていた経験があり、心のどこかでいつの日か映像の仕事に復帰できれば、と考えていたと言います。そんな澤井さんに再び映像の仕事に挑戦するきっかけをつくったのが「富士見 森のオフィス」。富士見町でどんな暮らしを送っているのか伺いました。

やりたかった映像の仕事
始めたきっかけは「森のオフィス」

6歳と7歳の年子のお子さんを持つ北海道出身の澤井さん。

結婚を機に東京から夫の実家のある長野県茅野市に移住、その後富士見町に住まいを移し生活をスタートさせました。もともと東京のテレビ局で働いていた経験があり、茅野市での田舎暮らしをしつつも、心のどこかではいつの日か映像の仕事に復帰できれば、と考えていたと言います。そんな折、富士見町に「富士見 森のオフィス」というコワーキングスペースができました。色々な業種の方が行き交うこのオフィスで、やりたかった仕事が再開できるのでは、と期待が膨らみます。家族の理解もあり、夫と子供2人、一家揃っての富士見町への引っ越しを計画することとなりました。

富士見町へ居を移すことを決めてから、すぐに不動産屋に相談し物件を探して回りましたが、すんなりと物件が見つかることはありませんでした。

「新築には興味がなかったんですよ」という澤井さん。まずは拠点を富士見町に移し、アパート暮らしをしながら中古物件を探す日々が過ぎました。2年が経ったある日、役場の空き家担当係から物件情報が舞い込みます。すぐさま見学に訪れ、物件を目にした途端に「ここだ！」そう思ったそうです。

富士見町の家と町に
癒されています

澤井さん一家が住むことに決めた物件は築30年以上、広々とした庭のある2階建ての物件。おばあちゃんの家に来たような、そんな落ち着いた雰囲気

が気に入ったそうです。ほどなく澤井さん一家はこの物件に引っ越し。四季に応じて変化する山々の表情や虫や鳥たちの声に魅了される日々、気づけば雲の様子や匂いで天気がわかるようになっていたそうです。

昔ながらの土地に新しく入っていく、ということにはじめは少し抵抗がありましたが、子供達はすぐに新しい学校にも馴染み、区にも加入したことで地区行事にも積極的に参加するようになりました。澤井さんにとって区への加入は人から必要とされる、仲間意識を高めてくれるものとなりました。

自然の中にいるから
特別なものは必要ない

「庭でカブトムシを捕まえたんですよ」そう笑顔で話す澤井さん。自然の中にい



森のオフィスで知り合った仲間たちとメディアを作るコミュニティを立ち上げ。自然が近い環境で子どもたちも遅く成長しているそう。

るから、特別に出かける必要はない。2人のお子さんも毎日庭先へ出ては虫捕りなどを楽しんでいるそう。収穫したての野菜をご近所からいただく機会も多く、採りたて野菜がおやつになることも。

「今の時期、夏野菜がとにかく美味しい。採りたて新鮮なきゅうりを丸かじり、これが一番美味しいんです！」

やっぱり富士見町に
来てよかった

長野県に越して来たことをきっかけにフリーランスとなり働き始めた澤井さん。コワーキングスペース「富士見 森のオフィス」では同業の仲間との出会いがあったそうで、富士見町の情報を発信するWEBメディア「sen-nin」を立ち上げました。また、フリーランスのフットワークの軽さを生かして様々

な企業や地域イベントの動画案件にも関わり始めています。

子供が学校に行っている間、そして子供を寝かしつけてからの時間が仕事時間。子供のいる時間は母親としての時間を大切に、家庭と仕事とのバランスを取りながらの生活は充実している、そう話します。

求めれば叶う、澤井さんは今、心から富士見町に来てよかったと感じているそうです。物件を一目見て「ここだ！」そう感じた家は、きっと運命の場所だったのでしょ。

富士見町には子育てと仕事を両立しているお母さんが増えてきているそうです。そんな働くお母さんたちの活躍の場の一つに、富士見町はなりつつあるのかもしれません。



ビジネスに関する相談窓口

富士見 森のオフィス
Tel:0266-78-8009
<https://www.morino-office.com/>

こちらのインタビューの全文をご覧になりたい方は、富士見町移住情報WEBサイト「ウツリズム」からご覧ください。下記のQRコードからもアクセスが可能です。



「ウツリズム」
<https://u-town-fujimi.jp/articles/t8bq04000000ojl.html>



STORY 03

高齢者と育む 地域の居場所作り のこれから

地域おこし協力隊として4年前に富士見町に移住した久保有美さん。町社会福祉協議会とともに地域福祉、主に高齢者福祉の向上につとめ、様々な形で地域の「居場所づくり」に取り組んできました。3年間の中で地域の方と一緒に育んできた居場所づくりと、任期を終えて【つくえラボ】として始めた富士見町でのこれからの活動について伺いました。

きっかけは震災。 誰かの為に働いてみたい。

「富士見町に来る前は、自身の制作活動を続けながら、都内の美術館などで働くという生活を続けていました。でもずっとこの生活を続けていくのかな？という葛藤は持ってたんですね。そんな思いを抱えていた時に東日本大震災が起きました。震災を機に、人生で1回くらい誰かの為に、何かを一生懸命できる仕事に就きたい。そう思うようになったのがきっかけです。」

久保さんが選んだのは介護職でした。「まさか自分が介護の仕事に就くなんて、考えもしなかったのですが、続けていた美術館の仕事を退職して、ヘルパー2級（現在の介護職員初任者研修）の資格を取得して介護の仕事に就くことになりました。最初は障がい者施設、その後高齢

者介護施設などで3年ほど働き、介護福祉士の資格も取得しました。思えばそれと同時期に車の免許を取得したのが富士見町に来るいちばんのきっかけだったのかもしれませんが。車の免許を取った途端にどこか行ってみたい！という気持ちになってしまったんです（笑）」

地域おこし協力隊として富士見町へ。

地域おこし協力隊という制度があることを知った久保さんは、協力隊の募集をしている様々な土地を訪ねたそう。

「長野県以外にも協力隊の募集がかかっている色々な地域を訪ねました。その中でも富士見町を選んだのは、社協職員とともに高齢者が生き生きと元気に暮らすお手伝いをするという仕事の募集内容と、富士見町の雄大な自然、出会った人がなんとなくゆったりとしていて、そ

れが私に合っていると思ったからです。」

富士見町の社協の一員としての 生活の始まり

社協の一員としての仕事が始まった久保さん。その3年間の活動は、地域の、主に高齢者の方々の大切な居場所として育っていき、今も続いています。

「最初に社協の方々には「久保さんの好きなようにやってくれてよいからね」というお言葉を掛けてもらいました。だけど最初は何からどうしていったらいいのかわからずに悩みました。ただ、社協の一員として地域に出やすいという状況と、個別訪問の機会も沢山あったので、地域の皆さんと直接話ができたことは大きかったです。面白いお話も沢山聞けましたが、それぞれが抱えている問題や課題が分かったというのはありました。」



【出張えんがわ】を始めた数々のイベントやコミュニティで、沢山の方が地域の方との交流を楽しんだ。

高齢者が生き生きと元気に暮らす お手伝いを

「地域の集まりに出ていきたいけど、機会も少ないうえに、様々な理由から出られない方もいる。小さな集落なのに、しばらく顔を合わせていないというケースもあったので、もっと地域みんなが気楽に、継続的に集まれる機会を作れたら良いなと思い、【出張えんがわ】を企画しました。それが富士見町に来て一番の仕事だったんですけど、地域の皆さんの楽しみの一つになったかなと思っています。それまであまり顔を合わせる機会がなかった方たちが、再び顔を合わせてそれぞれ近況報告をすることで、お互いに気掛けるようになり、自然に地域の見守りに繋がったのはよかったです。」

地域おこし協力隊の3年の任期の中で久保さんは、「地域活性化」という言葉

では事足りない程様々な活動を行いました。

「高齢者の方の活躍の場＝居場所」として地元の方を講師に招いての畑作部、稲作部や、道の駅に生産者登録し、地元のお母さんたちが作ったアクリルたわしの販売など。

「この3年間は本当に楽しくて、地域の方と一緒に色々なアイデアを形にしていくという面白さは、自分の芸術活動にとっても似ていると思いました。最初は3年のつもりでしたが、今までの活動が、まだまだ成し遂げられていない事がとても多いなと思い、これまでの活動を継続し、自分なりに、より活動内容の幅を広げていくために、【つくえラボ】という団体を立ち上げました。この集落の中で、「こんなところにこんな楽しそうな場所がある!」といわれるようなモデルケースを作れたらいいなと思ってます!



介護福祉の相談窓口

富士見町社会福祉協議会
Tel:0266-62-6766
<http://fujimimachi-shakyo.jp/>

こちらのインタビューの全文をご覧になりたい方は、富士見町移住情報WEBサイト「ウツリズム」からご覧ください。下記のQRコードからもアクセスが可能です。



「ウツリズム」
<https://u-town-fujimi.jp/articles/b33a5c0000000diq.html>



STORY 04

富士見町発
天然素材を使った
無添加石けん

富士見町で、無添加石けんブランド「HOUR®」を立ち上げた小古間かずささん。移住のきっかけは、富士見町の特産品であるひまわり油でした。「富士見町のひまわり油を使って富士見町発の石けんが作りたい!」そんな地産地消を大切にしている小古間さんの、富士見町の土地と素材にかける想い。その先には、富士見町ならではの大きな可能性が満ちていました。

この町でオリジナルブランドを
作るきっかけ。

富士見町に移住する前は、横浜と東京で暮らしていた小古間さん。手作り石けんは素材が命。ここ富士見町の土地の風土だからこその素材で、生産者さんの顔が見えるものもと、石けんの元となる素材探しをしている時に会ったのが、富士見町の特産品であるひまわり油。「ひまわり油を使って石けんを作りたい。」こうして2015年、富士見に移住。暮らしながら、無添加石けんの製造をスタートしました。

石けんづくりに欠かせない
富士見町の3つの素材との出会い

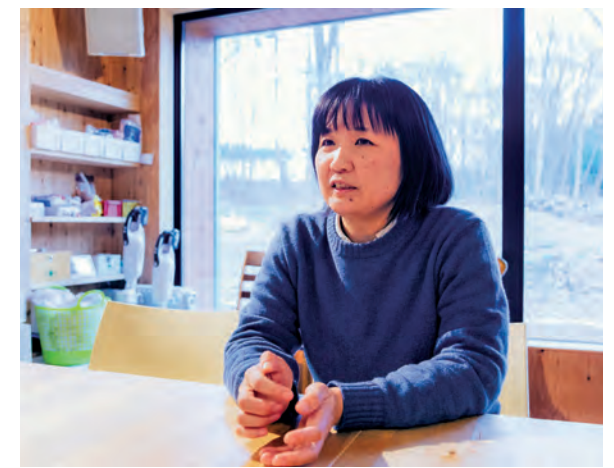
「移住してから、次に会ったのは『はちみつ』です。高校生が養蜂をやっていることを聞き、これは石けんにはできると

思いました。富士見で商品化した第一号です。そして活動を行う中、無農薬で薔薇を育て、蒸留まで行っている地元のバラの生産者さんとの出会いをきっかけに、『ローズウォーター』を使った石けんのアイデアが浮かびました。」
こうしてここ富士見町で『ひまわり・はちみつ・薔薇』の3つの素材が集まりました。一つ一つ生産者さんの顔が見えるもの。種まきから収穫まで、土地の様子や水の良さも伝えられる素材でできています。
「富士見に移住するまで、こんなに素晴らしい素材がある土地だとは思いませんでした。活動していく中で出会ったものばかりです。」

富士見町での大きな転機

個人で化粧品として石けんを作る一番

の壁は、製造する場所を確保すること。どれだけ良い素材を使っても、許可された場所で製造しないと化粧品として販売できないという課題を抱えていました。
そんな中、なんと化粧品の製造工場が富士見町に出来る事に。まさか富士見で化粧品が作れる環境になるとは、移住当初は思いもしないことでした。
これは何かの縁だと、断られるのを覚悟して化粧品会社の方に会いに行った小古間さん。
「尋ねた化粧品製造会社、(株)ピノールさんで、「地元産の化粧石けんを作ろう」と快くお声がけしていただき、石けん作りを始めてからの長年の課題が、富士見町で叶うこととなりました。
「こうして、石けん作りの環境が整いました。もともと素材が揃っている場所に飛び込んだのではなく、こちらに移住



オール富士見でできた石けん「HOUR®」。素材となるひまわり畑にもぜひ訪れてもらいたいと話す小古間さん。

して活動していく中で、様々な人との出会いから繋がって自然と整っていったのは自分でも驚きでした。」

メイド・イン・富士見町の
石けんブランド『HOUR®』の誕生

良い素材と、製造する場所が整い、最後の砦は商品化をするにあたりその商品の魅力を最大限に引き出すブランディング。パッケージデザインやネーミングをどうするか。
そんな時に支えとなったのが森のオフィス。新しく作る石けんは、ここ富士見町を拠点にしているデザイナーの方たちと一緒に作りたい。そんな想いから森のオフィスのスタッフを中心にチームを立ち上げる事に。
こうして、ついに富士見町発の無添加石けんブランド「HOUR®」が誕生しました。

「石けんを作りたいと考えたときに、富士見町の中で繋がった縁で、実現することができました。今回の経験は、私にとっても、富士見町にとっても、可能性が広がることだと思いました。」
『この町の中だけで商品化する』という可能性が、富士見町にはあるのです。
個々の力が寄り集まって一つのものが出来る、という可能性を、もっと多くの人に感じてほしいと、小古間さんはいいます。
小古間さんの作った、メイド・イン・富士見町の新しい石けんブランド『HOUR®』は、「時間」という意味と、「みんな」という意味があります。
一人では出来ないことも、みんなでやればできるということのきっかけになってほしい。そんな願いを込めて『HOUR®』と名付けられました。



新規創業の相談窓口
富士見町商工会
Tel:0266-62-2373
<https://fujimi-ts.org/>

こちらのインタビューの全文をご覧になりたい方は、富士見町移住情報WEBサイト「ウツリスム」からご覧ください。下記のQRコードからもアクセスが可能です。



「ウツリスム」
<https://u-town-fujimi.jp/articles/did0ag00000002mm.html>

おしえて！ひらさん

移住に関してよく聞かれるさまざまな疑問・質問を富士見町役場に勤続37年！の平出裕一さんにお聞きしました。ここに載ってない質問は、ぜひ直接聞いてみてくださいね！



Q 冬場は雪はどのくらい積もる？ 除雪車などは通る？

雪の心配は、交通手段です。安心なのは4WDの車がベスト。除雪体制はかなり進みましたのでFF車でも十分です。緊急の場合でなければ、半日待てばほぼ除雪完了です。



Q 町内に総合病院はある？ 夜間や休日の救急は？

なんといっても富士見高原病院。キャッチが最高です！「遠くの親戚より、近くの高原病院」ですね。産婦人科はありませんが、内科、整形外科などほぼ大丈夫。人間ドックは、長野県でもトップクラスです。スタッフ、職員のやさしさは最高ですよ。夜間、休日とはとにかく電話をしてください。個人病院や歯科医院、動物病院もあります。

さらり映画にも出たよ



Q 保育園・幼稚園はいくつある？ 待機児童は？

富士見の良さは、保育園の多様性です。町内は公立保育園5園。近くには幼稚園もありますよ。なんといっても子どもの自主性を育てる「森のいえ ぼっち」（野外保育）大自然の中、屋根のない保育施設です。ぜひ見学してみてください。のびのびした子どもの笑顔や想像力に私たちが教えられますよ。



Q 家賃の相場はいくら？ 一軒家の物件はある？

戸建ての賃貸住宅で5万円程度でしょうか？家賃交渉は我々もお手伝いしますよ。草取りや庭の管理は大変ですけどそれが楽しみに変わるのも時間の問題。木陰、麦茶、一休み。スローライフですね。一軒家の物件はそのタイミングで様々出ます。額も様々。400万円から1000万円程度までが一番多い価格帯です。若い方々は、安い物件を購入してDIYも楽しいですよ。地元大工さんにリフォームを依頼すれば補助制度もありますよ。



あこがれのスローライフ

Q 買い物に困らない？ 商業施設はある？

なんといってもめぐりモールふじみ。生鮮食品は抜群の鮮度。西友富士見店も営業時間が長いので急な買い物も便利。家電、日用品もそれぞれ大型店がそろっています。駅前商店街も個性派ショップが並び、家族でぶらぶらと楽しい週末も。衣類やお酒、お惣菜、古本、店主との会話も楽しいですよ。



直販コーナーも充実

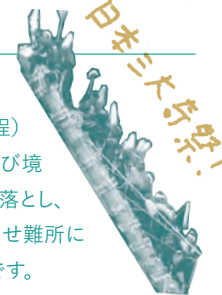
Q 富士見町の「いいところ」をおしえて！



なんといっても、この自然環境とそれと共存する地域の人々の人柄ですよ。全国的に進む温暖化の影響を受けていますが、四季の移り変わりを肌で感じられる豊かさは、富士見の特徴です。春の足音、秋の気配。心洗われる新鮮さですね。

Q 御柱祭ってなんですか？ どんなことするの？

7年に1度の天下の奇祭。八ヶ岳から切り出す縦の大木（直径1メートル、長さ7メートル程）を大勢の人力で引っ張り、諏訪大社まで運び境内に建てます。八ヶ岳の裾野から大きな坂を落とし、川を渡り2千人を越える地域住民が力を合わせ難所に挑みます。これに参加すれば立派な諏訪人です。



Q 移住者は多いの？ 地元の人と仲良くなれる？



ここ数年で若い移住者が増えました。移住者のコミュニティがこちらで作られ、楽しく暮らしていますよ。友達が友達を呼ぶような傾向がありますね。女性はすぐ馴染めます。定年をした男性は馴染むのに時間がかかる人が多い傾向ですかね。奥さんの友達から広がる友好関係がスムーズでしょうか。地域を散歩して立ち話ができればもう一人前。次の日には玄関に野菜が届きますよ。まずは挨拶からですね。

Q 仕事は見つかる？ どんな業種が多い？

サラリーマンですと諏訪エリアから甲府あたりまでマイカーで1時間が通勤範囲。せっかくの田舎暮らしを楽しむなら町内の企業へ。出勤前の趣味の時間も十分とれます。製造業や観光関係、農業法人、さまざまですね。町役場に職業紹介所もあります。



Q 地震や台風などで危険なエリアはある？

町発行の防災ガイドブックを参考にしてください。富士見町の場合、地震、土石流、大雪などが心配されますが、大きな山に囲まれているので台風災害は比較的少ないかもしれません。縄文時代から5千年の今まで人々が住み続けていたことが何より安全の証です。



WEBでも見られます



ひらさんオススメ！富士見町「暮らしの便利帳」

富士見町の魅力や、町に暮らす人のための手続き・サービス、身近な生活ガイドなど、ここに書ききれなかった情報がたくさん載っていますのでぜひご覧ください！

役場で配布されている他、町のHPにも掲載されています。

[URL] <https://www.town.fujimi.lg.jp/uploaded/nt/15963.pdf>



PDFはこちら

移住関連施設



野外保育「森のいえ ぽっち」

富士見町環境を生かした“自然保育”

野外保育で園舎を持たない保育施設「ぽっち」は、屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、知力・体力を高めることができる新しいスタイルの保育として注目されています。子どもたちが四季を通じて自然と繋がりを持ちながら過ごし、自ら感じ考えることを大切にしています。

特定非営利活動法人 ふじみ子育てネットワーク

☎ 0266-62-7254

✉ info@fukosnet.com



STAY 夢想庵

移住体験ができる築200年の宿泊施設

なかなか移住後の生活が思い浮かばず不安…。そんな方のために富士見町では、実際にこちらに住むように長期滞在できる施設「夢想庵」をご案内。価格は一泊一人4,400円、施設が空いていれば何日でも連泊して富士見町の暮らしを体験する事が出来ます。

富士見ウツリスムステーション

☎ 090-1119-9332

✉ utsurisumu@town.fujimi.lg.jp



WORK 富士見 森のオフィス

ハヶ岳の麓にある仕事と学びと集いの場

2015年12月に長野県諏訪郡富士見町にオープンした、個室型オフィス、コワーキングスペース、会議室、食堂を備えた複合施設です。里山に住む人々と都会に住む人々をつなぎ、新しい仕事や働き方、暮らし方を創り出せる場を目指しています。

富士見 森のオフィス

☎ 0266-78-8009

✉ morino-office-info@routedesigning.com



STAY 森のオフィス Living

森のオフィスの隣に宿泊棟がオープン

4つの部屋と共有リビング、そして広々としたウッドデッキを備えたこの建物は、富士見町へ移住を検討する人や二拠点居住者、自然豊かな場所で仕事に打ち込みたいチームにとっての絶好の滞在場所になるほか、イベント・催しの場としても利用できます。

森のオフィス Living

☎ 0266-78-8009

✉ morino-office-info@routedesigning.com

相談窓口

子育て・教育 に関するご相談

富士見町役場 子ども課子ども・家庭相談係

☎ 0266-62-9233

✉ kodomo@town.fujimi.lg.jp

子どもと家庭の相談窓口 WEBサイト



就職 に関するご相談

富士見町役場 産業課工業交通係

☎ 0266-62-9228

✉ sangyo@town.fujimi.lg.jp

富士見町内の求人情報 WEBサイト



移住・定住 に関するご相談

富士見ウツリスムステーション

☎ 090-1119-9332

✉ utsurisumu@town.fujimi.lg.jp

移住情報サイト「ウツリスム」 WEBサイト



〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見 4654-796 富士見駅舎内

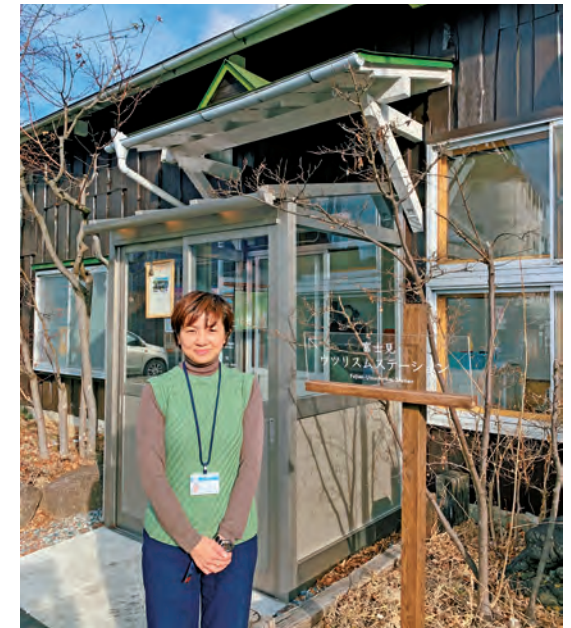
営業日：平日（但し、祝日及び年末年始を除く）

営業時間：9時00分～16時45分

移住・定住のことなら

『富士見ウツリスムステーション』へ
お気軽にどうぞ。

富士見町役場の職員が、土地や空き物件探しのサポート・空き家改修費補助制度等のご相談を承ります。



富士見町役場

〒399-0292 長野県諏訪郡富士見町落合10777

https://www.town.fujimi.lg.jp/



移住情報サイト「ウツリスム」

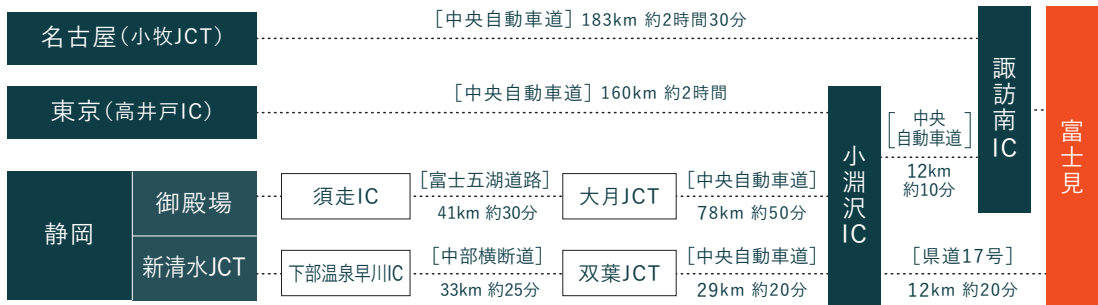
https://u-town-fujimi.jp/index.html





ACCESS

🚗 お車でお越しの方



🚆 電車でお越しの方

